

関係団体の意見と対応

【平成22年6月連携排砂、平成22年7月連携試験通砂及び平成22年8月短時間集中豪雨対策の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	<p>① 連携排砂でダムから流出した土砂量や海に流入した土砂量及び拡散状況の把握に今後も努めて欲しい。</p>	<p>① 出・洪水や排砂・通砂時の正確な土砂量の把握は、現在の測定技術では困難な状況にあるが、土砂動態の把握のため、排砂シミュレーションの精度向上に努めるとともに、平成16年以降、新たに排砂期間前の5月にダム貯水池測量を実施している。</p> <p>この他、出・洪水時、排砂・通砂時の流砂量観測や、黒部川河口より海へと流出した土砂量及び土砂の質、海での拡散状況を把握するため、排砂実施時のヘリコプターによる空撮、海域での採水調査等を実施しているところである。今後とも土砂動態の把握精度の向上に努めて参りたい。</p>

【平成 22 年 6 月連携排砂、平成 22 年 7 月連携試験通砂及び平成 22 年 8 月短時間集中豪雨対策の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	<p>② 今後の宇奈月ダムの堆砂形状を踏まえ、漁場環境や漁業へ影響がより少ない排砂方法を検討してほしい。</p>	<p>② 平成 18 年度より連携排砂計画に組み入れてきた試験通砂、平成 21 年度に組み入れた短時間集中豪雨対策を、今年度実施することができた。</p> <p>試験通砂及び短時間集中豪雨対策の調査結果は、平成 23 年 1 月 19 日に開催された第 34 回黒部川ダム排砂評価委員会において、評価を頂いたところであり、次年度の連携排砂・通砂計画に反映したい。</p> <p>今後も、排砂及び通砂方法について検討・改善することにより、限りなく自然に近い形で排砂及び通砂が実施できるよう、努力して参りたい。</p>

【平成 22 年 6 月連携排砂、平成 22 年 7 月連携試験通砂及び平成 22 年 8 月短時間集中豪雨対策の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	<p>③ 船体の損傷など、流木による漁業への影響が懸念されるため、排砂実施機関においては今後も流木処理等の対応をお願いしたい。</p>	<p>③ これまでも、黒部ダム、出し平ダム及び宇奈月ダム湖に出・洪水時に流入してくる流木については、排砂期間前後及び排砂期間中にできるだけ回収している。</p> <p>また、河道内に堆積した流木については、従来から次回の出・洪水時に下流に流出し、被害を及ぼすことが想定されることから、積極的に回収している。</p> <p>今後も、排砂期間中にダム湖内に流入し、浮遊する流木及び河川管理上支障のある河道内の流木の回収に引き続き努めて参りたい。</p>

【平成 22 年 6 月連携排砂、平成 22 年 7 月連携試験通砂及び平成 22 年 8 月短時間集中豪雨対策の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	④ 猫又付近の土砂堆積対策について、土砂搬出の具体的方策を検討してほしい。	<p>④ 出し平ダム貯水池上流の猫又地点は、平成 7 年 7 月の大出水以降、出水による土砂堆積が顕著であり、同地点に在る黒部川第二発電所及び新黒部川第二発電所のそれぞれの放水口付近において、発電機能維持を図るため、機械掘削を行っている。</p> <p>現在放水路付け替え工事の中の新黒部川第二発電所については、完成後、機械掘削は不要となるが、黒部川第二発電所は、土砂堆積のため、引き続き放水口付近の掘削が必要である。</p> <p>このため濁りの発生が予想される箇所については、仮締め切り施工中に土嚢積みを行い、濁りの発生を極力抑制している。</p> <p>今後とも、堆積土砂処理については、環境への影響を小さくするような方法を検討していきたい。</p>

【平成 22 年 6 月連携排砂、平成 22 年 7 月連携試験通砂及び平成 22 年 8 月短時間集中豪雨対策の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	<p>⑤ 排砂と魚の生息への影響に対する因果関係について、今後も調査地点、方法を含め検討してほしい。</p>	<p>⑤ これまで専門家の指導ならびに海面漁業関係団体と相談しながら、魚の生息環境の変化を把握するため、水質、底質、マクロベントス、動物・植物プランクトンの調査を行ってきたところである。</p> <p>また、平成23年1月19日に開催された第34回黒部川ダム排砂評価委員会において、「マクロベントスに関する細かいモニタリングを行っているが、それらのデータについて、さらに詳しい解析や解釈ができないか検討したい」との意見があった。</p> <p>今後ともマクロベントスの出現の解析や解釈を含めて、専門家の助言・指導を頂きながら、魚の生息環境の変化の把握に努めて参りたい。</p>

【平成 22 年 6 月連携排砂、平成 22 年 7 月連携試験通砂及び平成 22 年 8 月短時間集中豪雨対策の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
内水面漁業関係団体	<p>① 平成 22 年度は実施基準流量を引き下げた試験通砂及び短時間集中豪雨対策が実施された。このような基準引き下げによって、通砂が頻繁に実施されることにより、川に生息する魚族への影響が懸念される。今後とも川に生息する生物に配慮した実施を検討されたい。</p>	<p>① 実施機関では、黒部川の河川環境へ与える影響を軽減できるような排砂方法の検討に努めるとともに、黒部川及び出し平・宇奈月両ダムにおける排砂前後の環境状況を把握すべく、定期的かつ排砂期間中の排砂環境影響調査を行っており、魚類採捕調査などにおいても、これまで専門家の指導ならびに内水面漁協の方々にご協力頂きながら、実施してきているところである。</p> <p>平成 22 年度に実施した試験通砂及び短時間集中豪雨対策については、第 3 4 回黒部川ダム排砂評価委員会における評価を踏まえ、今後の試験通砂及び短時間集中豪雨対策のあり方について検討を行っているところである。</p> <p>これまで同様、生物の生息環境への影響に対する調査や分析に努めて参るとともに、今後とも専門家の指導ならびに内水面漁協の方々からご意見を伺い、また、ご協力を頂きながら実施して参りたい。</p>

【平成 22 年 6 月連携排砂、平成 22 年 7 月連携試験通砂及び平成 22 年 8 月短時間集中豪雨対策の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
内水面漁業関係団体	<p>② 第 3 4 回黒部川ダム排砂評価委員会での評価において、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出・洪水時、連携排砂および連携通砂実施時において、アユの肥満度について今後検証の必要がある。 <p>とあるが、組合としてはアユの生育など生息環境の影響について危惧しているところである。</p> <p>そのため、水生生物の過去の個体数や種数の推移について、科学的な分析を行い、解明に務めるとともに、魚族の生息環境改善に務められたい。</p>	<p>② 実施機関では、魚類の生息環境への影響に対する分析や調査については、専門家の指導ならびに、内水面漁協の方々のご協力を頂きながら、調査・分析に努めてきたところである。</p> <p>ご指摘の点については、第 3 4 回黒部川ダム排砂評価委員会での評価も踏まえ、引き続き、専門家の指導ならびに内水面漁協の方々からご協力を頂き、更なる調査・分析に努めて参りたい。</p>

【平成 22 年 6 月連携排砂、平成 22 年 7 月連携試験通砂及び平成 22 年 8 月短時間集中豪雨対策の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
内水面漁業関係団体	<p>③ 現在実施されている排砂後の措置 300m³/s、3時間については、魚族の生息環境の改善には十分寄与されていないと考えていることから、排砂後の措置におけるダムからの放流量の増量について検討を図られたい。</p>	<p>③ 排砂及び通砂後に河床に堆積する砂泥分をフラッシュする目的で平成 17 年度より実施している排砂後及び通砂後の措置の効果については、昨年 1 月開催の第 32 回黒部川ダム排砂評価委員会において、評価を頂いたところである。実施機関としては、排砂及び通砂後の措置実施時の流況にもよるが、ダムからの放流量について今後検討を進めていくとともに、これまで同様、生物の生息環境への影響に対する調査や分析に努めて参りたい。</p>

【平成 22 年 6 月連携排砂、平成 22 年 7 月連携試験通砂及び平成 22 年 8 月短時間集中豪雨対策の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
農業関係団体	<p>① 連携排砂の実施期間は6月から8月までとなっており、この期間は灌漑期（4月から9月）の中で、もっとも水の必要な期間であるため、取水停止時間の短縮に向けた、一層の努力をしてほしい。</p>	<p>① 排砂及び通砂は、一定規模以上の出・洪水発生に貯水池内に堆積している土砂及び出・洪水に伴い流入する土砂を貯水池内に貯めなくて排出・通過させるものであり、出・洪水の末期にあわせて実施している。</p> <p>今年度においても、昨年度と同様、自然流下時間を12時間以内として、出・洪水の流況に応じて適切な自然流下時間となるよう臨機に対応している。</p> <p>なお、今回の連携排砂及び試験通砂は、洪水調節も無く、標準的な運用であった。また、短時間集中豪雨対策は、大きな出水がなかったこともあり、取水停止を行わずに実施できた。</p> <p>愛本合口堰堤では、出・洪水に伴って取水停止となっているが、排砂及び通砂による影響がすべてではないことをご理解頂きたい。</p> <p>今後も、取水停止時間の短縮については、引き続き努めて参りたい。</p>

【平成 22 年 6 月連携排砂、平成 22 年 7 月連携試験通砂及び平成 22 年 8 月短時間集中豪雨対策の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
農業関係団体	<p>② 連携排砂・通砂については、下流域の天候等を十分に考慮し、その時の状況に合わせて、臨機に対応していただけるよう、関係箇所と協議してほしい。</p>	<p>② これまでも農業用水の取水停止時間を出来るだけ短くするために、平成 17 年度からは、黒部川沿岸土地改良区連合と調整し、特に長時間の断水が水稻の生育に影響を及ぼすと考えられる 7 月 15 日から 31 日の期間に排砂等を実施する場合は、夜間においても河川の濁り状況で取水再開を判断できる様に基準を設け、取水停止時間の短縮を図ること等を実施している。</p>

【平成 22 年 6 月連携排砂、平成 22 年 7 月連携試験通砂及び平成 22 年 8 月短時間集中豪雨対策の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
農業関係団体	<p>③ 農業関係者の中には、排砂・通砂に対する認識が少ない方々がいることから、排砂・通砂実施時の住民に対する周知を強化してほしい。</p>	<p>③ これまでも排砂期間前、連携排砂及び通砂実施中、黒部川ダム排砂評価委員会及び黒部川土砂管理協議会開催時等機会あるごとに記者発表、事務所ホームページへの掲載等により広報に努めてきたところである。</p> <p>また、平成 17 年度からは、連携排砂、通砂及び短時間集中豪雨対策実施中に（短時間集中豪雨対策は、平成 21 年度から）、みらーれテレビ行政チャンネル（入善町、朝日町）上にテロップで愛本合口堰堤の取水状況について広報しており、これまでも、よりわかりやすい表示内容の改善に努めてきたところである。加えて、広報車による地域広報を実施していただいている。</p> <p>さらに、平成 20 年度からは、市町広報誌への折り込みも実施している。</p> <p>今後とも、連携排砂及び通砂と取水停止期間の考え方等についてご理解いただけるよう関係機関等とも連携しながら、より効果的な広報の実施に努めて参りたい。</p>

【平成 22 年 6 月連携排砂、平成 22 年 7 月連携試験通砂及び平成 22 年 8 月短時間集中豪雨対策の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
農業関係団体	<p>④ 愛本堰堤より上流部の黒部川河床に土砂が堆積し、取水口付近では河道変動が生じて水門施設や兩岸の合口用水取水量に影響を及ぼすことが懸念されます。</p> <p>愛本堰堤上流部での土砂堆積と黒部川本川河道について、連携排砂との関係調査を今後も継続していただきたい。</p>	<p>④ 今年度、関係機関と調整し、土砂堆積のモニタリング調査を実施した。土砂堆積と連携排砂等との関係は、引き続き注視して参りたい。</p>